

- 6月の米消費者物価指数は前月比+1.3%と、市場予想の同+1.1%を上回った。前年同月比では+9.1%と、市場予想の同+8.8%を上回り、1981年11月以来、およそ41年ぶりの上昇率を記録。
- 13日に米金利は一時急上昇もその後は低下、主要株価指数は下落幅を縮小。ともにポジションを修正する動きが優勢になったと考えられる。ただし、7月のFOMCは1.00ポイント利上げの見方も。

## エネルギーの上昇が全体のおよそ半分を占めた

13日に米労働省が発表した6月の米消費者物価指数(CPI)は前月比+1.3%と、市場予想の同+1.1%(ブルームバーグ集計。以下、同じ)を上回り、2005年9月以来、およそ17年ぶりの高水準でした。

内訳をみると、ガソリンを始めとするエネルギーの上昇が全体のおよそ半分を占め、自動車保険などの交通サービス、中古車が高い伸びとなりました。また、食品のほか、全体のおよそ4分の1を占める帰属家賃(家賃のほか、持家についても実勢で評価した計算上の家賃などを含めたもの)が1990年8月以来、およそ32年ぶりの上昇率となったことも全体の伸びを下支えるかたちとなりました。

CPIは前年同月比では+9.1%と、市場予想の同+8.8%を上回り、1981年11月以来、およそ41年ぶりの上昇率を記録しました。一方、このうち、振れの大きい食品とエネルギーを除いたCPIコアは同+5.9%と、市場予想の同+5.7%を上回ったものの、3カ月連続で伸びは鈍化しました。

## 13日の米金利は低下に転じ、米国株は下げ幅を縮小

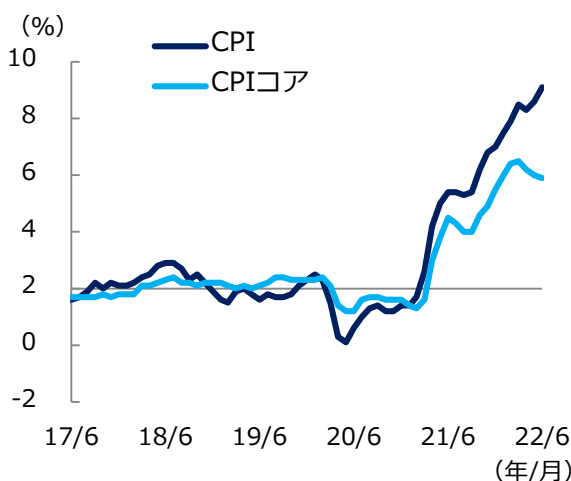
13日の米国市場では、CPI発表後に金利が急上昇し、10年国債利回りは前日の2.96%台から一時、3%を超える場面もありましたが、程なく急低下し、2.93%台で取引を終了しました。また、主要株価指数は下落したものの、機関投資家などが参照するS&P500種指数は日中の下げ幅をおよそ4分の1程度まで縮小するなど、持ち直しの動きとなりました。

11日に米大統領報道官が6月のCPIについて、非常に高い水準になるとの見通しを示したことから、市場では事前に警戒感が高まっていたとみられますが、発表後は米国債、米国株ともにポジションを修正する動きが優勢になったと考えられます。

市場ではCPIの内容を受けて、7月26-27日に行われる米連邦公開市場委員会(FOMC)で0.75ポイントの利上げが有力視されているほか、1.00ポイントの利上げもあり得る、といった見方が浮上している模様です。

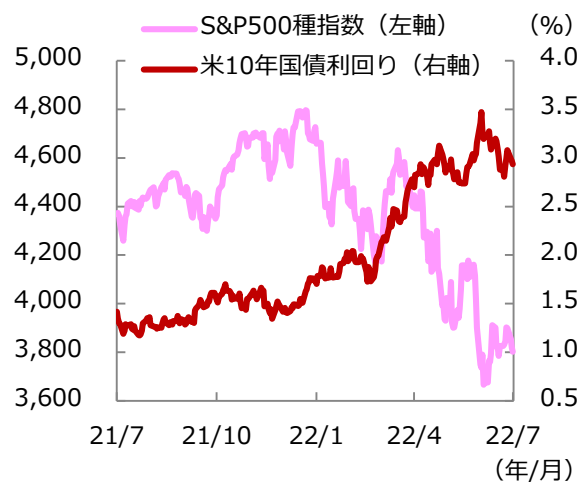
米連邦準備理事会(FRB)が今後、金融引き締め強化の姿勢を継続するとの市場の見方が強まるなか、FOMC後の記者会見でパウエル議長は、市場の混乱を回避すべく、細やかな手綱さばきが求められそうです。

## 米CPIの推移



※期間：2017年6月～2022年6月(月次)  
前年同月比、季節調整前

## 米国株・米金利の推移



※期間：2021年7月13日～2022年7月13日(日次)

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。



# アセットマネジメントOne

商号等：アセットマネジメントOne株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号  
 加入協会：一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会

## 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

### 【投資信託に係るリスクと費用】

#### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

#### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

##### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

##### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

### 【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
  1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
  2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
  3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

#### 【指数の著作権等】

- S&P500種指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングスLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S&P500種指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。